

図の上部には、次の口上がある。

当年出生

尾上菊五郎

悴

尾上鐘助

御名残り狂言口上

高ふはムリ升れど御免をかふむりまして是より口上を以て申上り私義親共より打つき御鼻眞あつく未熟不調法の私身にも応ぜぬ名跡を相続仕り升るを御しかりもなく却而御ひるきに預り升る段冥加至極と心魂にてついか斗か有がたき仕合に存奉り升分けて申上り升るは私義年来の心願にムりまして築紫太宰府へ参詣仕り立願にムリ升る所段々延引仕りましたる故が多病にムり升て何れも様の御機嫌もそこね何共恐入奉り升る是則天満宮へ参詣延引になり升事かと気がかりにムリ升る故此度暫らく何れも様の御暇を乞請築紫へ罷り立升るやうにムリ升扱御ひるき様より御進メ被下升るは故尾上菊五郎も御当地御名残りの節は勘三郎座に置まして忠臣蔵由良之助役を勤ましたる例もムリ升れば其名跡を續ぐ其方なれば御名残りのため且は故梅幸の追善にも相なる事故勤升る様にとたつて御すゝめ被下升れど何といたしまして不調法に念の入ましたる私存もよりませぬ義とたつて辞退仕りましたる所先年御鼻眞に預りましたる先ん坂東彦三郎義剃髪仕りまして楽善と申升るか親共より内縁の者にムリ升る此仁も常々由良之助は大役の事故其時節迄は決而相勤ざる事と兼々異見仕りましたる所此度申され升るには何れも様の御進メといひ且は手前事最早先キもなき年浪存命の内此役を相勤メよ此度はまげてゆるすと世を捨し楽善万事おしへくれ升事故と当座頭市川團十郎是逆も内縁ムリ升るが此狂言を御名残りに仕り升るやうにと共々相進メ其外の仲間中も一流深切に進メくれられ殊に古めかしき狂言故外の役は色々に取替勤くれられ升る段もだしがたく身に余りましたる大役を各様方の御鼻眞にあまへ御厚志をたよりに相勤升る義にムリ升る決而私が由良之助役を勤升るにはムりませず故菊五郎を楽善おしへくれられ升るをまねいたす斗にムリ升る偏に故菊五郎の追善御多ふと思召何卒御見物に御来駕被成下升る様偏に願上奉り升又々来顔見世には早々罷り帰り御目見へ仕り升るやうにムリ升猶其節は不相替御ひるき下され升る様先は御名残りの口上すみから隅迄宜御評判の程偏に奉希上り升る